

すなやつちとあそぼう ～ どろだんごめいじんになろう ～

横浜市立さが丘小学校 1年3組 大久保作織

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

- ・自分たちの思いを素直に表すことができ、生活科でやってみたいことにどんどん取り組む意欲がある。休み時間に繰り返しお気に入りの場所に出かけている児童もいる。
- ・入学後しばらくして粘土遊びをしたとき、多くの児童が「まんまる競争」にのって来た。かなり長い時間粘土を丸めることに集中して取り組んでいた。
- ・ペア学年の6年生とかかわることが好きなので、6年生にアドバイスをもらいたいと考えるのでは？
- ・50周年の運動会、航空写真撮影を終えて、特別な年なので、何かやってみたいという気持ちをもっている。

身に付けさせたい力と材について

- ・学年目標「たけのこ」で、「ぐんぐんと、のびのびと、失敗を恐れない」子どもをめざしている。間違えたり失敗したりすることが嫌で躊躇する子たちも、この魅力的な材によって、あきらめずにチャレンジし、友だちと協働し試行錯誤して成功する体験をもつことが期待できる。
- ・興味がある活動なので、お互いの気付きを交流する場では話をきちんと聞く力がつき、伝えたいという思いから話す力もつくと考えられる。
- ・だんごを丸める活動では、手の巧緻性や集中力を高めたい。・6年生や教職員、地域の方と、50周年に向けてよい交流が期待できる。

内容（6）自然や物を使った遊び

内容（8）生活やできごとの交流

内容（9）自分の成長

単元目標

繰り返し砂や土と関わる活動を通して、教職員や他学年児童とのかかわりや、身近な自然の不思議さについて考えることができ、砂や土で遊ぶ中で自分なりの工夫をし、自分のよさや友達と一緒に活動することのよさを実感できるようにする。

単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
他学年児童や教職員と交流しながら、友達と関わり合って砂や土で遊んでいる。	自分のしたい遊びに関して、どのような条件が必要かを自分なりに比較したり試したり、友達と協働したりしながら考え、それをすなおに表現している。	〇〇などろだんごをつくるためには、土の種類や水分量がかかわることに気付いている。 自分で試したり工夫したりしたことを友達と交流することのよさに気付いている。

2 研究主題との関連『学びをつなぐ』

(1) 実社会・実生活と「つなぐ」・・・「人とつなぐ」

○ 教職員

- ・校長 … 「学校たんけん」のときから校長室には何度も行ったことがあり、毎日の給食時にも声をかけていただいている。使いたい砂場や土置き場についてお願いをしにいき、「自分たちの力で許可をとった」ことで、大きな自信につながり、活動への意欲をもつことができた。約束した片付けも、自発的にできていた。
 - ・職員室 AS Yさん … 子どもたちにはあまりなじみがないが、いつも宿題の印刷などでお世話になっていることに気付かせたかった。
 - ・3年S先生 … 校長先生が環境担当の先生につないでくださった。「じょうずなだんごができたから見せてね。」と言ってくださったことが、子どもたちのやる気アップにつながった。
- #### ○ 6年生 …
- ペア学年でかかわりも多い6年生に、今までの経験からのアドバイスをもらうことを期待した。通りがかりの別学年児童も、1年生の頃を思い出しながら声をかけてくれるなど、思いがけず交流が増えた。
- #### ○ 地域の方 …
- できただんごを50周年の飾りにして、地域の方に見てもらいたいと願いをもったことで、だんごに対する思いが一層強くなり、探究心が生まれると思う。

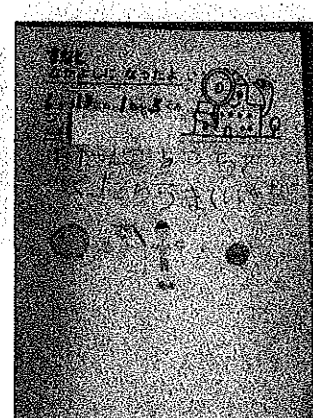
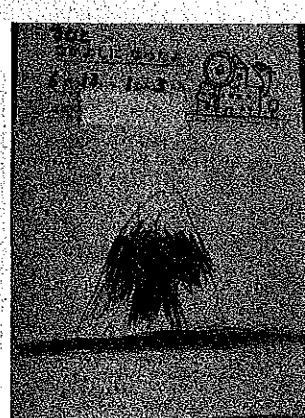
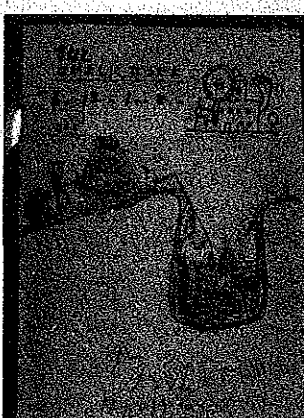
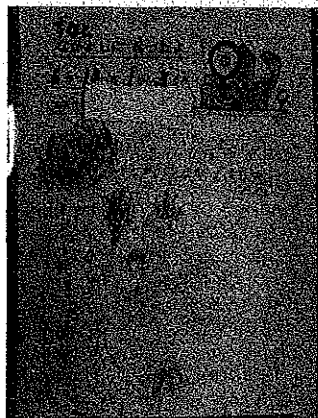


(2) 一人ひとりの学びを「つなぐ」・・・「気づきの交流」

○ ふりかえりカードの活用

「すなであそぼう」の活動を終えてかいたふりかえりカードが、とても生き生きとしていた。すべてのひらがなをまだ学習し終えていないので、何人かの児童は、言葉のやりとりから教師がカードに言葉を記録した。

この頃の児童の特性として、他の児童の活動に目を向けることはまだ難しいし、カードを見合う経験も少ない。そこで、カードや写真をOHCで投影しながら全員で交流する時間を設けた。「つちとあそぼう」のカードでは、数人の気づきを紹介してカードを読む時間を設定した。すると、掲示してある友達のカードを見て、「〇〇さんと同じようなことに気が付いたよ。」といった交流が児童間に自然に生まれていった。そのつぶやきをまた他の児童に投げかけることで、一人ひとりの学びをつなぐことができるので、今後もこのような活動を続けたい。



○ みんなで名人をめざすから技の交流が生まれる

S先生に「すごいのができたら見せてね。」と言われたことで、こどもたちはもっと〇〇なだんごをめざすようになった。すると、うまく作れなくてもかまわない、と違う遊びをしていた子どもも、だんだんと巻き込まれ、自分で作りたいという思いをもち、「誰か教えて!」と声をかけるようになった。できない子を励まし、「こうやってつくるんだよ。」と教える子も出てきてこつが伝わり、みんなのだんごがまるく、かたくなっていった。「水を入れすぎちゃダメなんだよ。」「きなこすなをつけると、うまいくよ。」と土の性質に気付いたアドバイスをし合い、お互いの団子を見比べながら楽しんでつくることができた。

(3) 授業と授業、単元と単元を「つなぐ」・・・「他教科とつなぐ」「幼保の体験から」「学年・学級目標とつなぐ」

○ 他教科とのかかわり

生活科は、「約束したことを守る」「使ったもの・場所をきちんと片付ける」など、道徳科と密接な関係にある教科であるので、教師側が意識的に声をかけることで、どちらの教科にとってもプラスの効果を生むと考え、実践した。

また、国語科で「その場にあった言葉づかい」をすることが大切であることを学ぶために、児童を「全権大使」としてお願いに行かせる活動は有効であった。「今お時間よろしいですか。」といったアポイントをとる言葉は、大人になっても使えるものであるので、学齢が低い時期から積極的に使わせたい。

高学年になると、調べ学習といえはすぐにインターネットで調べる児童がいるが、「わからないことは人に聞く」という情報の集め方の有用性について経験を積んでおくことも、今後の総合的な学習の時間へのつなぎとなるのではないかと考え、奨励した。

○ 幼保・学年・学級目標とのかかわり

身近にある材である「砂」「土」。園からの接続期の児童には親しみやすく、全身で楽しむことができる材である。学級の児童(27名)に材について聞いてみた。

- | |
|---|
| ● 園で砂や土で遊んだことがある児童 … 24名 |
| ● 今までどんな遊びをしたことがあるか
やま(多数) 山に穴を開ける 道具を使って遊ぶ(多数) 川をつくる
迷路の道 落としあな 絵を描く 秘密基地 おだんご |
| ● 園でどろだんごを作ったことがない児童 … 10名 |

どろだんごを作ったことのない児童のイメージでは、「気持ち悪い」「汚い感じがする」と否定的な意見が聞かれた。これらの児童に「そんなことないよ。楽しかったよ。すごくきれいなのでできるんだよ。」と励ましの言葉をかける子たちもいた。

このことから、初めからどろだんごに絞って活動するのではなく、取り掛かりやすい砂場から土、そしてどろだんごと段階をおって活動するほうが無理がないと思われた。また、理科的なものも意図して計画したいと思い、単元を構想することにした。

児童は入学してから2～3か月のうちに、幼稚園や保育園でできなかったことができるようになったという経験を、学習や給食などで少しずつ積んでいる。学級目標「ともだちいっぱいやさしい サンサン※ 3くみ」を目指し、学年目標「たけのこ」でめざす「ぐんぐんと、のびのびと、失敗を恐れないう子に近づくために、この活動はよい契機となった。

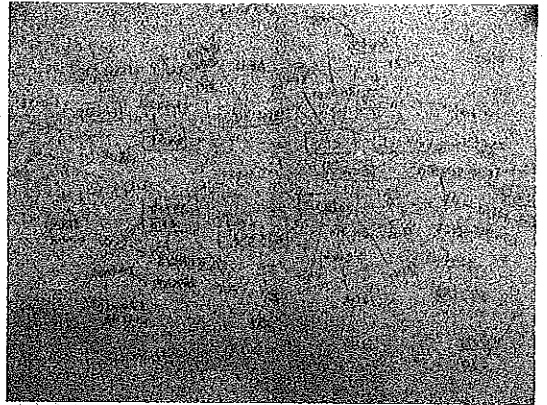
3 子どもたちが夢中になれるようなしかけ

<指導案検討でのアドバイスより>

○ 多様な活動の保障

初めにこの単元を計画したときは「どろだんご」にしぼった活動にしようと考えていた。しかし、児童の興味関心を重視するならば、多様な活動ができるように範囲を広げておく方がよいとアドバイスをいただき、前述の実態調査と合わせて、砂や土と広げた活動とした。

単元の流れや児童の思考がうまくつながり、自分のしたい遊びを十分に楽しむことができたので、学級の児童にとってはこの単元構想でよかったと思う。



○ 許可をもらう

2(1)に書いた校長先生に許可をもらいに行くという活動も、児童が意欲をもつよいきっかけとなった。残念ながら、黒土での栽培活動が多い時期だったので貸し切りにはできなかったが、「許可をとって約束を守れば、いろいろな場所が自由に使わせてもらえる。」ということが分かり、今後の学習のためのよい学びになったと思う。

○ 偶然を装い、場と時間を設定

「すなとなかよし」のときには、5年生が黒土を扱う時間にあてて、砂から土へ目が向くことを期待した。予想通り、「砂で作っただんごはすぐに崩れてしまうのに、土でつくったのは踏んでもつぶれるだけで、形が残っている。」ことに気付いた子がいて、その後の活動につながった。

また、職員室ASのYさんには、「つちとなかよし」の時間に『偶然』通りかかってもらうように知らせておき、交流のきっかけとした。アドバイスをいただいたり作っただんごをみてもらったりして、こどもたちはYさんの顔を名前をしっかりと覚えることができた。

○ 教師が用意したもの

- ・バケツ多め … いろいろな場所の砂や土をもってきて試せるように、また、水を汲んできて自由に使えるように
- ・移植ごて … 自由に土をほることができるように
- ・蚊取り線香 … せっかくの活動が嫌にならないように、場所・季節によっては必要

○ 失敗が子どもを強くする

・どろのみち

土遊びの日、教室に帰る途中や着がえた部屋を汚す。自分たちで掃除するも、余計に汚す。すぐに対応してくれた職員や、一緒に掃除をしてくださったキッズの職員に感謝する子どもたちであった。

・どろだんごをおく場所

一回目は外に置いていたが、風が強い日だったためだんごたちは転がり、側溝に落ちたものの多数。次のときは教室に連れてきたいと、階段や廊下を汚さないように気を付けても

ってきた。身近な場所に置いたことで、お互いのだんごを眺めたりかわいがったりできるようになり、だんごにますます愛着が湧いた。

・約束したのに…

慣れてきたころ、2時間目に続けて休み時間も遊んでいたこどもたちが、いくつも忘れ物をしてきて、5年生のN先生に届けていただく。校長先生との約束「きちんと片付ける」ができなかったのもうだんごは作れないと青ざめる。忘れ物をした児童はN先生を探してお礼をいい、その後全員で校長先生に「もう一度だけチャンスをください」とお願いにいくことになった。

○『理想のだんご』を目にする

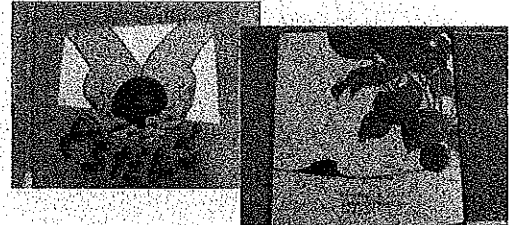
インターネットの写真を提示した。「こんなにまるくなるんだろうか?」「本当に土でつくっただんごなのかな?」と半信半疑のこどもたち。しかし、「つるつるのだんごをつくった」という6年生児童がもってきてくれた実物をみて、「すごい!」と目を輝かせた。その後、子どもたちはその6年生を『ししょう』と呼び、「次に何をすればいい?」と聞いたり、自分たちの作っただんごを見てもらったりしながら、さらに○○のだんごをめざして活動を続けた。

○ 図書の活用

「おだんごばん」… 園で読んでもらっていた児童が何人かいた。その中で、おだんごばんの歌を歌う子がいて、だんごをつくりながら歌う子も多かった。

「どろだんご」

… 作っていく過程を自分たちと比べながら、「そんなに水を入れたらだめだよ!」「坂を転がすのはおもしろそう」などと、楽しんでいた。



4 活動の流れ（時間＋常時活動）

活動のきっかけ

○「ねんどのおみせやさん」ごっこで、まんまる競争をして楽しかった。園のときに、砂場で団子を作っていたなあ。

- ・砂遊びで、他には山を作ってトンネルをほったりしたよ。道を作って、水を流したりもしたよ。
- ・あまり砂で遊んだことがない…
- ・生活科で夏の遊びのページがあるよ。学校の砂場で遊びたいなあ。

他教科等との関連等

【図工】

「ねんどのおみせやさん」

【生活】

「なつとあそぼう」

1 すなとあそぼう ④

○ 砂場で遊ぶ計画を立てよう ①

- ・校長先生に、「砂場をかしてください。」って、頼みに行こう。
- ・お願いの仕方は、これでいいかなあ?
- ・許可証をもらったよ! 水曜日が楽しみだな。
- ・廊下を汚してはいけないから、タオルをもってこない。着替えも。

校長先生への「依頼の仕方」で、職員室に入るときのマナーや言葉づかいを獲得。

【道徳】

「たいせつなきまり」

持ち物は、教師側から細かく知らせるのではなく、今までの経験から、自分で必要だと思うものをもってこさせた。

○ 砂で遊ぼう ②

- ・初めは水を入れてもなくなったのに、たくさん入れるとたまった。不思議だな。
- ・水を入れたら「あわどろ」ができたよ！
- ・すごく深い穴をほった。ブラジルまではいかなかったけど。
- ・山を固くするには、白砂を少しかけるとよかったはず。
- ・山に穴をあけたら、手がつながったよ。くすぐったい！
- ・5年生が使っていた泥をもらった。砂だと壊れるけど、泥なら固い団子が作れそう。
- ・校長先生との約束通り、きちんと片づけをしたよ。また遊びたいなあ。

○ 砂遊びで楽しかったことを伝え合おう ①

- ・みんなと一緒に穴を掘ってたのしかった。
- ・幼稚園では、山を掘ってトンネルにしたとき、成功したことが無かったんだけど、成功して手をつなげた。山に少しずつ水をかけながら固めて、ときどき白砂をかけたたら大きくて固い山ができた。
- ・中休みに土でどろ団子を作ったよ。6年生が、「ぴかぴかのどろ団子をつくったことがある。」って言った。

今度は黒土で遊びたい！また校長先生にお願いに行こう。

【図工】

「しぜんとなかよし」

【国語】

「なんていうのかな」

【国語】

「知らせたいな 見せたいな」

しょうきょかしよう 使用許可証

1年3組さん
6月16日(月)の1・2時間目、校庭の指定遊具場
で土遊びやあそびをする許可をします。
初回は土の前のあそびの場と同じです。遊具と
あそびの場は土遊びに許可をもらったので遊
び終わったあそび場を先生にお礼をいって行っ
てください。



平成30年6月16日
さくらが丘小学校
校長 中澤清雄

2 つちとあそぼう ③ 十常時活動

○ 土とあそぼう ②

- ・水を吸んで流したら、砂のときと違って、しみ込まない。沼になってどろどろだよ。
- ・どろだんごが固い。落としたらちょっとひびが入ったけど、割れない。
- ・周りに砂をまぶしてみたら、きれいに丸まった。
- ・だんごのつくり方をY先生に教えてもらったよ。
- ・土がだんだん泥沼になってきた。足が抜けないよ！
- ・片付けがとても大変だった。砂のときよりどろどろで、汚れがとれないよ。
- ・わたしが汚したわけではないけれど、1年3組で汚れたのだから、雑巾できれいにしよう。校長先生との約束だからね。

○ 土遊びで楽しかったこと、学んだことを伝え合おう 0.5

- ・着替えやタオルを忘れて大変だった。準備はきちんとしないとけないと分かりました。
- ・本物の川みたいになっているところがあったよ。
- ・巨大などろだんごはとても重かった。
- ・だんごで字をかいてみたよ。
- ・だんごは水を使うとうまくいったよ。
- ・いろいろな砂を混ぜて作ってみた。
- ・ぼくも、固いだんごを作りたいな。

<みんなはどんなだんごが作りたいの？>

- ・つるつる きらきら しやしんみたい
- ・かたい おとしでもわれない
- ・おおきい

ここで、ぴかぴかのだんごの写真を見せた。子どもたちの目が輝き、やる気 up。



【理科】

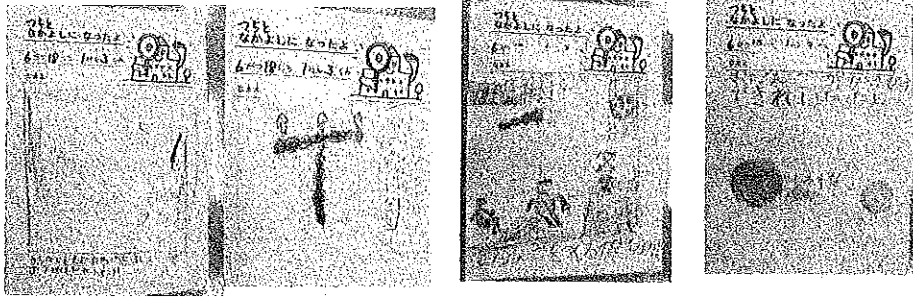
「流れる水のはたらき」につながる。

【道徳】

「じぶんでいいのかな」

昇降口あたりや着がえたキッズルームなど、あちこち結構よごしてしま。みんなで掃除したことも、よい経験に...

自分たちの知らない間に、専任、級外の先生たちが「どろのみち」の掃除をしてくれていた。あまりなじみのない先生方も自分たちを助けてくださっていることを知ることができた。



○ もっと〇〇などろだんごを作るには、どうしたら良いだろう。 0.5

- ・つちをまぜる
- ・しろすなやきなこ砂を使う
- ・どろだんごは水の量で固さはかわるから、実験してみたいな。
- ・本で調べてみるよ。
- ・うまく作れる人は誰かな？ こつをきいてみたら良いんじゃない？
- ・Y先生に来てもらおう。頼んできます。
- ・6年生に名人がいることが分かった！ 布でふくらしいよ。
- ・おじいちゃんにきいてこよう。

ふりかえりカードの
交流によって、子
どもたちの思い・願い
が広がった。

ちょうど休みの前の日。
家の人に聞いてこさせ
るように声をかけた。

このまま続けていったら、どろ
だんごめいじんになれるかな

めいじんの技って、どんな
のがあるのかな。

3 どろだんごめいじんになろう ⑥ +常時活動

○ 〇〇などろだんごづくりにチャレンジ！ ②

- ・つくったことなかったけど、初めて作れた。
- ・前よりも固いかも。うまくできた。
- ・もう一個作ってみる。 ・大きいだんごはすごく重いよ！

【道徳】
「ともだちっていいな」

○ どろだんごとなかよしになったよ 0.5

- ・水が多いと固いだんごはできないことがわかった。
- ・風で転がってこわれちゃった。次に作ったときは、教室におきたい。
- ・廊下や階段に砂がこぼれないように運ぼう。

だんごが転がり、たくさ
ん壊れた。再チャレンジ
を余儀なくされる。

○ どろだんごめいじんをめざそう ①

- ・きなこすながあったよ。これを使うとつるつるになりそう。
- ・すごい！どうやって作ったの？ ・布でみがいてみたよ。

○ どろだんごめいじんになるわざをつたえあおう 0.5

- ・きなこすなをつかうとぴかぴかになった。
- ・手をくちばしにしてみたらうまくいった。

○ きょうはどんなわざにチャレンジするのかな？ ①

- ・前よりもっとつるつるにしたい。
- ・だんだんとわざがうまくいくようになってきたよ。
- ・6年生とS先生やY先生にほめてもらった

○ めいじんになれたかな？ そのだんごは、どうするの？ ①

- ・〇〇さんののは、すごく丸くてきれいだね。
- ・ししょうにアドバイスをもらって、うまくできたよ。
- ・こんなに固いどろだんごが作れた。うれしいな。
- ・こんなにうまくできたから、
家に持って帰りたい。

【道徳】
「わたしのいいところ」

校長先生が、飾って見てもら
ったら？って言ってくれた！

めいじんになったから、もっとたく
さんの人にみてもらいたいなあ。

夏休みに家の人と一緒に
につくってみる！

4 50しゅうねんきねん！どろだんごアート（9月ごろ予定）②

【行事】
「50周年を祝おう」

○ どろだんごアートで、50周年を祝おう。 ②

- ・きれいなどろだんごが作れるようになった。
- ・どろだんごで「50」の数字を書きたい！
- ・何個くらい必要かな？ みんなで3つずつとか。
- ・飾る場所はどこがいいかな？ また校長先生に許可をもらわないといけないね。
- ・地域の皆さんにも見てもらえる場所がいいな。喜んでもらえるかな？

4. 評価 内容（6）自然や物を使った遊び内容（8）生活や出来事の交流（9）自分の成長

観点 小単元		生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分 についての気付き
すな や つち で あ そ ぼ う	すなで あそぼう	関：砂に触れたり砂で 遊んだりしよう としている。	表：砂遊びをして楽しか ったことや気付き を、言葉や絵で表現 している。	気：砂の触感、固さ、水を 加えることでの変化な ど、土を通して自然の おもしろさに気付いて いる。
	つちで あそぼう	関：友達とかかわり ながら土遊びをし ようとしている。	思：砂と土の違いを考え ながら、遊びに生か そうとしている 思：汚して困ったことを もとに、きれいに使 うための方法を考え ている。	気：砂と土の手触りや性質 が違うことに気付いて いる。
	どろだんご めいじんに なろう	関：人とかかわりなが ら、自分の求めるど ろだんごをめざし てつくろうとして いる。	思：どうすれば〇〇など ろだんごになるのか を、自分で試行錯誤 したり聞いたりしな がら考えている。	気：土を固めるには、適度 な水分が必要であるこ とが分かっている。 気：できるようになったこ と、遊びの工夫、友達 に伝えることなど、自 分の成長に気付いてい る。
	50 しゅう ねんきねん！ どろだんご アート	関：今までの経験を 生かし、人とかかわ りながら楽しくど ろだんごをつくら うとしている。	表：50周年記念に向け て頑張ったことをお互 いに伝え合ってい る。	気：自分たちが約束を守 っていくと、周りの大人 に支えられながら、学 校でもやりたいことが できるということに気 付く。

<参考資料>

○生活・総合「深い学び」のカリキュラムデザイン（田村学編＋横浜市黒船の会著）より

1年生「どろだんごとなかよし」 緑園西小学校 福田善行先生の実践

○1年1組「土とあそぼう！」平成25年6月 藤岡愛子先生の実践